



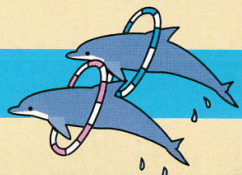
名古屋港水族館長賞

名古屋港水族館館長 内田 至

今回、審査に携わる中で、私が小学生の頃、蟻地獄について研究していたことを思い出しました。小さい頃は昆虫が大好きでした。その後、海の生き物に興味を持つようになり、現在に至ります。私自身、小さい頃の興味が今へとつながっていることを、とても幸せに感じています。

達貴さんが行った水質調査の研究は、長期間にわたり、何度も行うことで初めて何かが見えてくるもので、根気と努力を要するものです。お兄さんの3年間と達貴さんの調査をあわせて4年分のデータが集まりました。これからは、お二人の環境問題に対する強い思いが伝わってきます。ぜひ、引き続き調査していただきたいと思います。

そして、こういった研究も、今後につながっていくかもしれません。楽しみにしています。



理科部門

宇治川の水質調査 2007年 夏

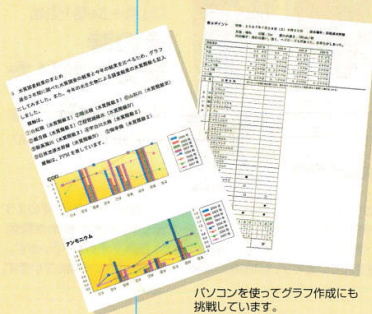
京都府 宇治市立北小倉小学校 5年 田中 達貴

お兄さんが過去3年間行った調査を引き継ぎ、「同じ時期・同じ時間・同じ場所・同じ方法」で水質調査を行った作品です。条件を同じにして調査することにより、総合的に結果をまとめた大作となっています。

今回、達貴さんが水生生物についての調査を続けて各調査地の水質階級を示したことで、調査結果の説得力が増しています。

地道な調査からは、お兄さんと達貴さんの「宇治川を少しでもきれいにしたい」という思いが強く伝わってきます。

調査地を地図で示すなどの工夫をすると、研究内容が視覚的に伝わり、さらによい作品になると思います。今後の研究が楽しみです。



パソコンを使ってグラフ作成にも挑戦しています。



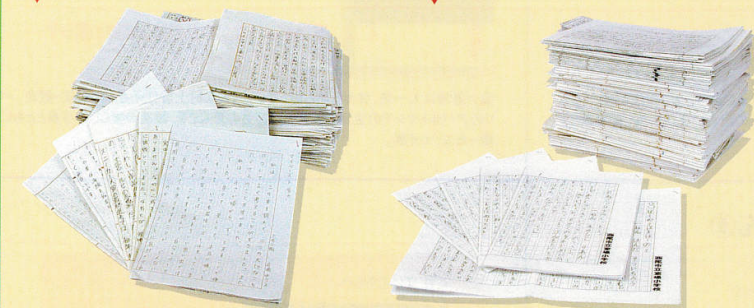
団体賞



愛知県 碧南市立東中学校



愛知県 西尾市立室場小学校



団体賞を受賞した団体へはKTC中央出版発刊の「子ども読科年鑑2007」が贈呈されました！

本年度も、読み手に伝えるために重要な「文章構成能力」に着目し、審査を行いました。残念ながら、誤字・脱字など、文章を書く上での基本的な部分がおざなりになっている作品が多々ありました。

そんななか、室場小学校の作品は全体的にきちんと作文指導をされているという印象を受ける作品が多く、特に低学年の作文に力作が多く見られました。また、東中学校の作品も、受賞にはあと一歩届かないものの、上手に感想がまとめられている作品が多く、来年に期待がもたれます。



顧問審査員特別賞

特別顧問 竹下 景子

今回、顧問審査員特別賞に選ばれた2作品は、大人が考えさせられるメッセージが込められており、本当に素晴らしい作品でした。

まず、赤松真実さんの「自分にできるのは…」は、6年前に起きた大阪教育大学附属池田小学校の事件について書かれていますが、私もこの事件に関しては、当時、ものすごい衝撃を受けました。この事件をきっかけに、防犯対策を強化した学校も多いようです。

以前、池田小学校に在籍されていた赤松さんは、テレビのニュースから流れてくる知り合いの名前を聞き、大きなショックを受けたようですが、それだけで終わらせない彼女の、純粋で強い心に胸打たれました。

「自分には、何ができるのか…」ということをしっかり考え、将来の進路を決められています。いろんな大人に読んでいただきたい作品です。

また、永友瑞乃さんの「わたしが作った朝ごはん」では、夏休みの間、永友さんが30日間作り続けた朝食のメニューを写真で紹介されていますが、小学2年生とは思えないくらい、とても上手に作られています。

最近では、朝食を食べない人も増えてきていますが、一方で朝食の大切さが注目されています。そんな中で、永友さんは、ただ朝食を毎日作るだけでなく、献立を立てる際に家族それぞれに必要なカロリーを調べたり、栄養素の働きを調べたり、しっかりと家族の健康面を考えた上で作られていることには驚かされました。

そして、30日間朝食を作った経験から、毎朝、朝食とお弁当を作って下さるお母様へ感謝の気持ちが新たに生まれたようです。日常生活の中には、やってもらうことが当たり前になってしまっていることがたくさんあります。だからこそ、こうして見直す機会を作ることとはとてもいいことですね。大人の私たちも見習いたいものです。



国語部門

自分にできるのは…

愛知県 愛知教育大学附属岡崎中学校 2年 赤松 真実

「当時は数多くのマスメディアによってそのあまりにも残酷な惨状が報道されていたが、年を重ねるにつれ、衝撃すら影を潜め、風化してしまっている。」

しかし、私が目にした新聞は、事件に遭遇した先生が、六年間を回顧する形で触れている記事だった。(中略)

「精神科医の資格を持ち、その上で臨床心理士としての仕事を生かしたらどうか。」

ますます複雑化する人間関係によって、心を病む人も増えることだろう。…そんな中で、私が対峙することによって、一人でも多くの人の心が救われるのであれば、一生を懸けてその仕事に没頭してみたいと思う。それこそが、「自分にできること」ではないのだろうか。

六年前に起きた附属池田小学校の事件について、リアリティーのある文章とともに、真実さんの心情が丁寧に書かれている作品です。

冒頭では、陰惨な事件の風化に対する問題提起、続いて事件のことを改めて考えるきっかけになったT先生の言葉を引用した文章、真実さん自身の過去の大切な思い出と悲しみの場面などが、読み手の心奥深くに届きます。文章の組立てをよく考えて書きあげた痕跡の感じられる文章です。

真実さんは、事件を振り返ることで「自分にできること」が何なのかということを探し出します。ただ単に悲しい事件で終わらせてはいけないという真実さんの強い意志と、複雑化する社会に対するメッセージが同時に感じとれます。



生活科部門

わたしが作った朝ごはん

東京都 百合学園小学校 2年 永友 瑞乃

「一学きにいんげんをちょうりしたことが楽しかったから」というきっかけで、朝食作りに挑戦した瑞乃さん。食べてくれる家族のことを考え、栄養素やカロリーについてもきちんと調べています。「トマトが赤くなるといしゃが青くなる？」「ごぼうを食べるのは日本人だけ？」などのコラムは研究の広がりを見せ、瑞乃さんの食に対する関心の高さがうかがえます。最後は「どうして朝ごはんが大げさなのか」についてまとめ、献立を決める際、食べたいものばかりでは栄養のバランスが悪くなってしまう、料理は作る順番を考えることが大切だと感想を述べています。これからも、朝食作りがんばってくださいね。



おいしく食べてもらうために、色々と調べたことがたくさんあります。